

新型コロナウイルス感染症による 生活・経済・地域社会への影響

令和3年（2021年）5月
北海道

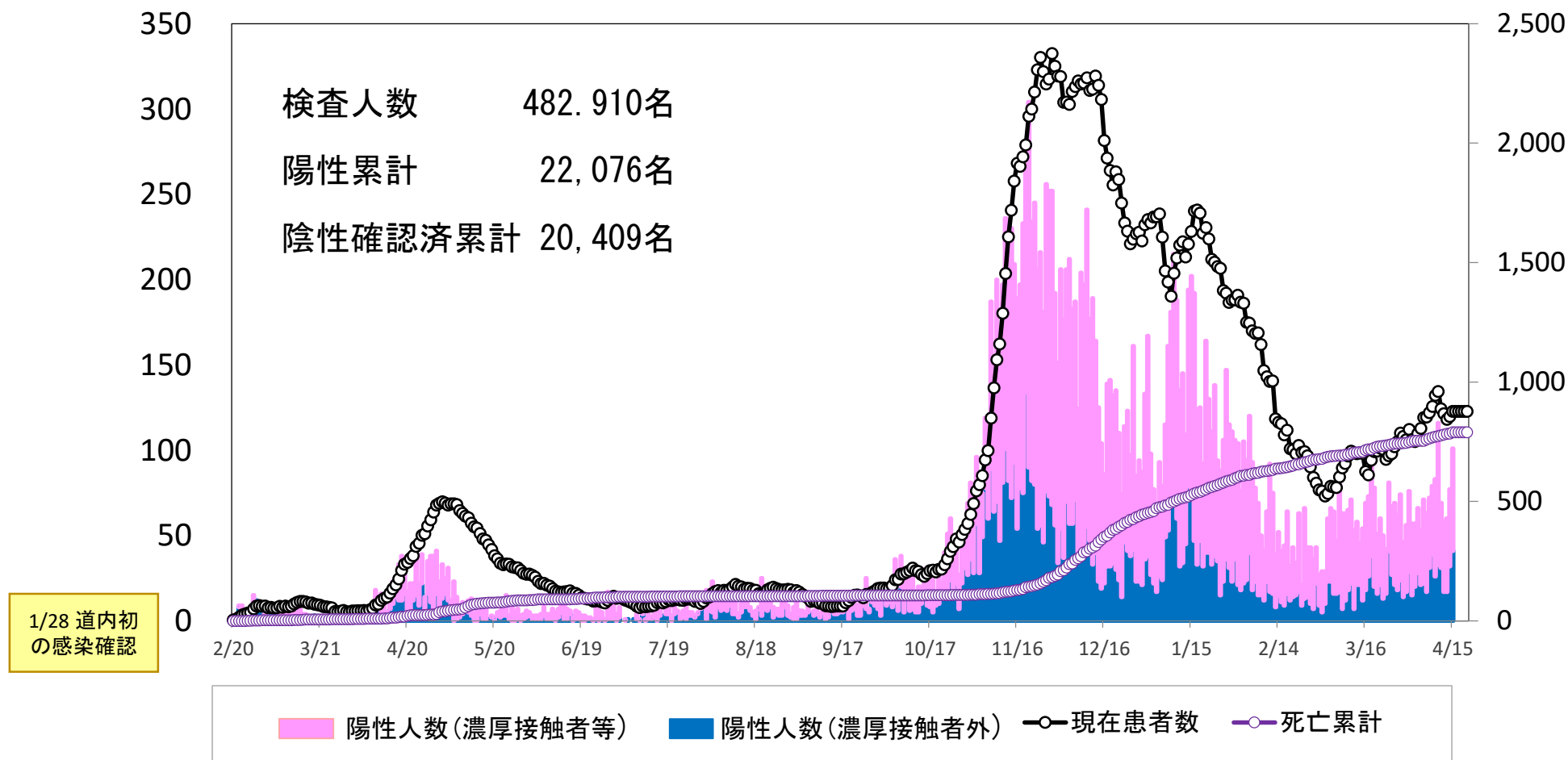
目 次

○ 新型コロナウイルスの感染状況（道内）	1
① 生活・安心	
（１）妊娠届出数	2
（２）自殺者数	3
② 経済・産業	
（１）業況感	4
（２）来道外国人数	5
（２）来道者数	6
（３）宿泊者数	7
（４）有効求人倍率	8
（５）完全失業者数・完全失業率	9
③ 人・地域	
（１）鉄道（ＪＲ北海道）の利用状況	10
（２）バスの輸送量	11
（３）ハイヤー・タクシーの輸送量	12
（４）転入・転出の推移（北海道）	13
（５）転入・転出の推移（東京都）	14
（６）地方移住への関心	15
（７）地方移住への関心理由	16
（８）ワーケーションへの関心	17

新型コロナウイルスの感染状況（道内）

- ・2021年4月15日現在、道内で累計22,076人の感染者が確認されている。

これまでの発生状況の推移（R3.4.15現在）



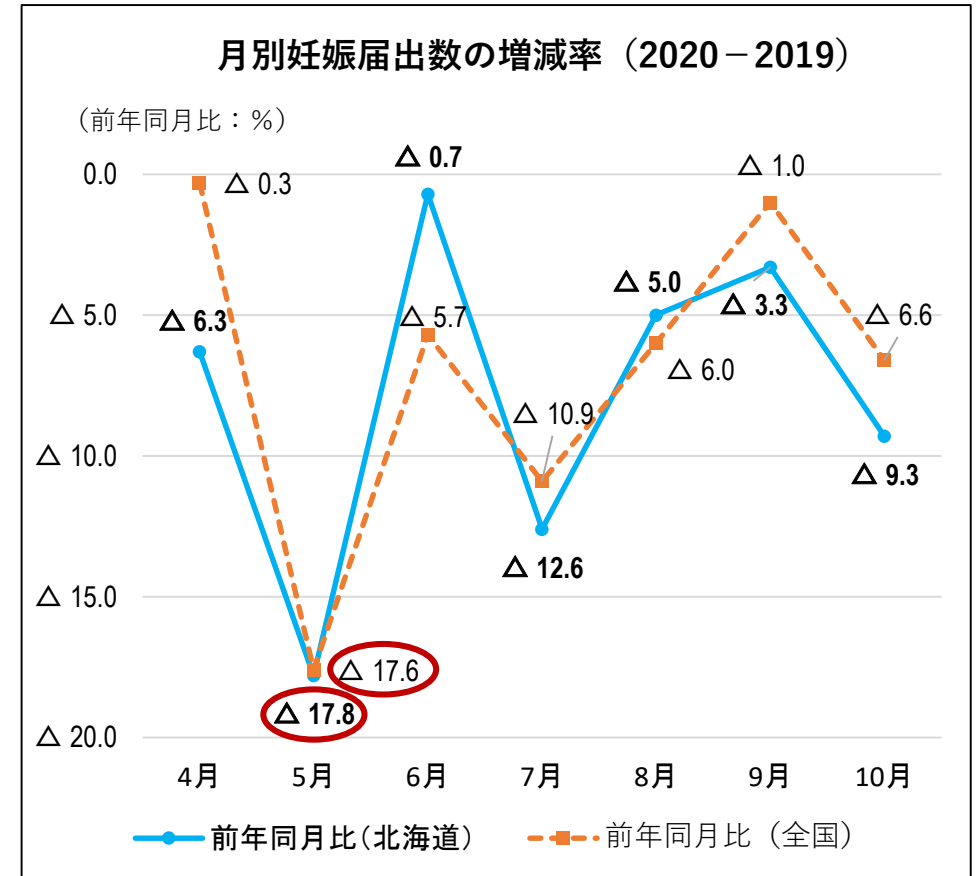
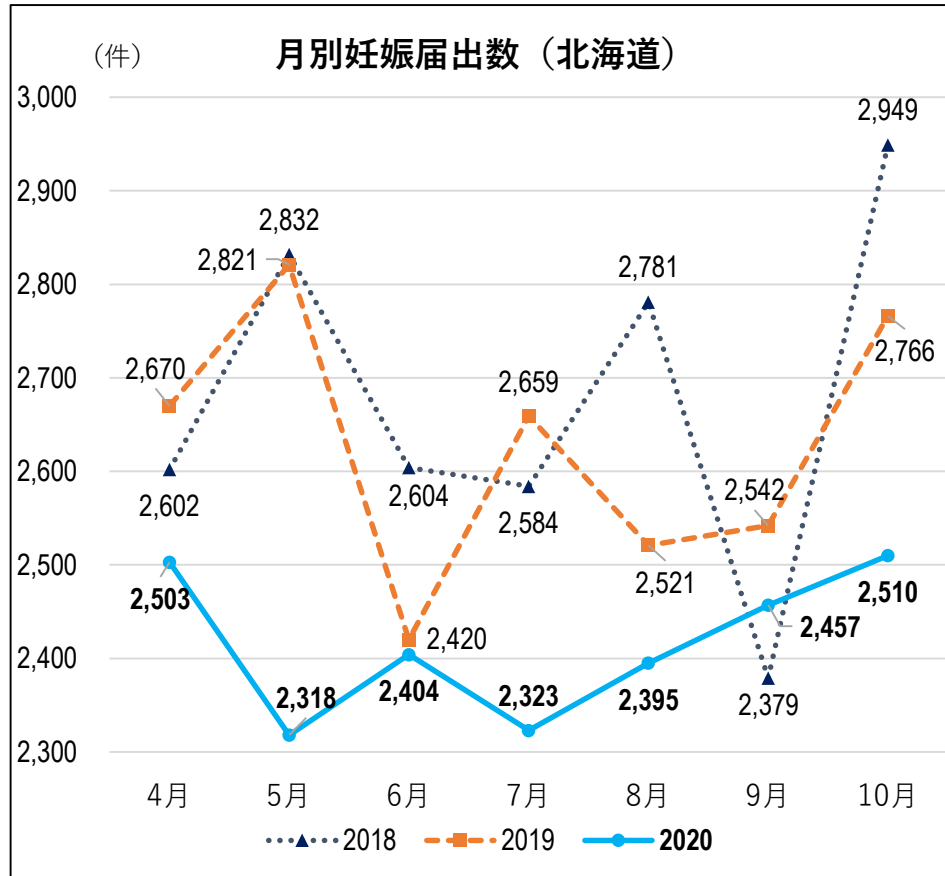
※「陽性人数」における濃厚接触者等の有無は、報道提供日における判明数での集計となります。

出典：北海道「新型コロナウイルス感染症に関する情報」を加工して作成

① 生活・安心

妊娠届出数

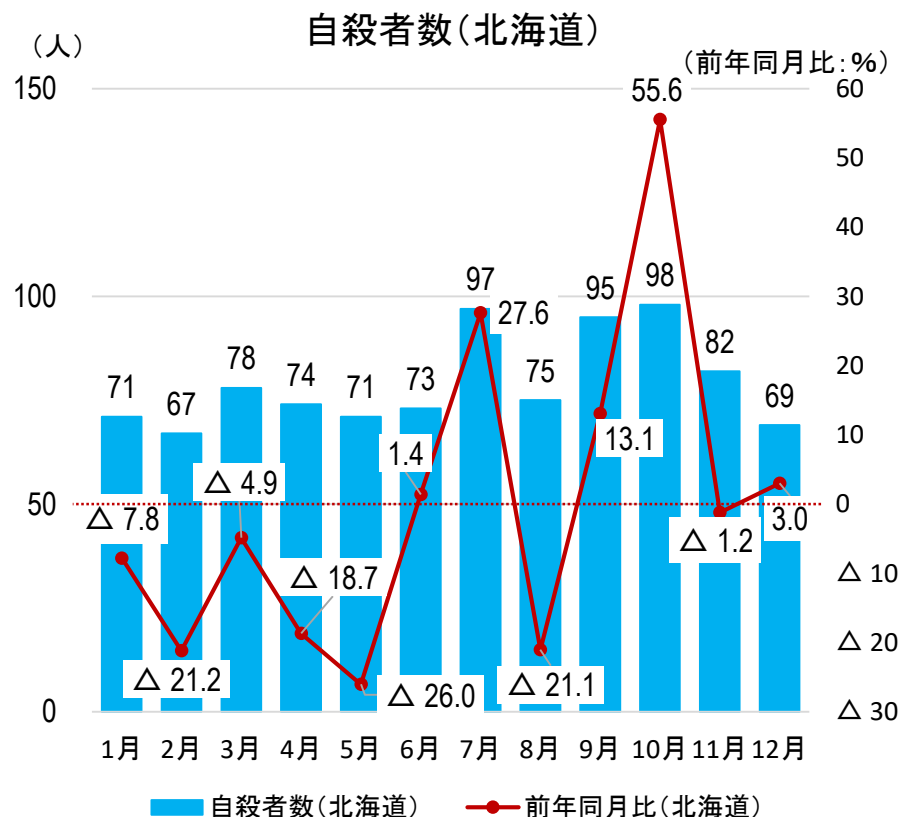
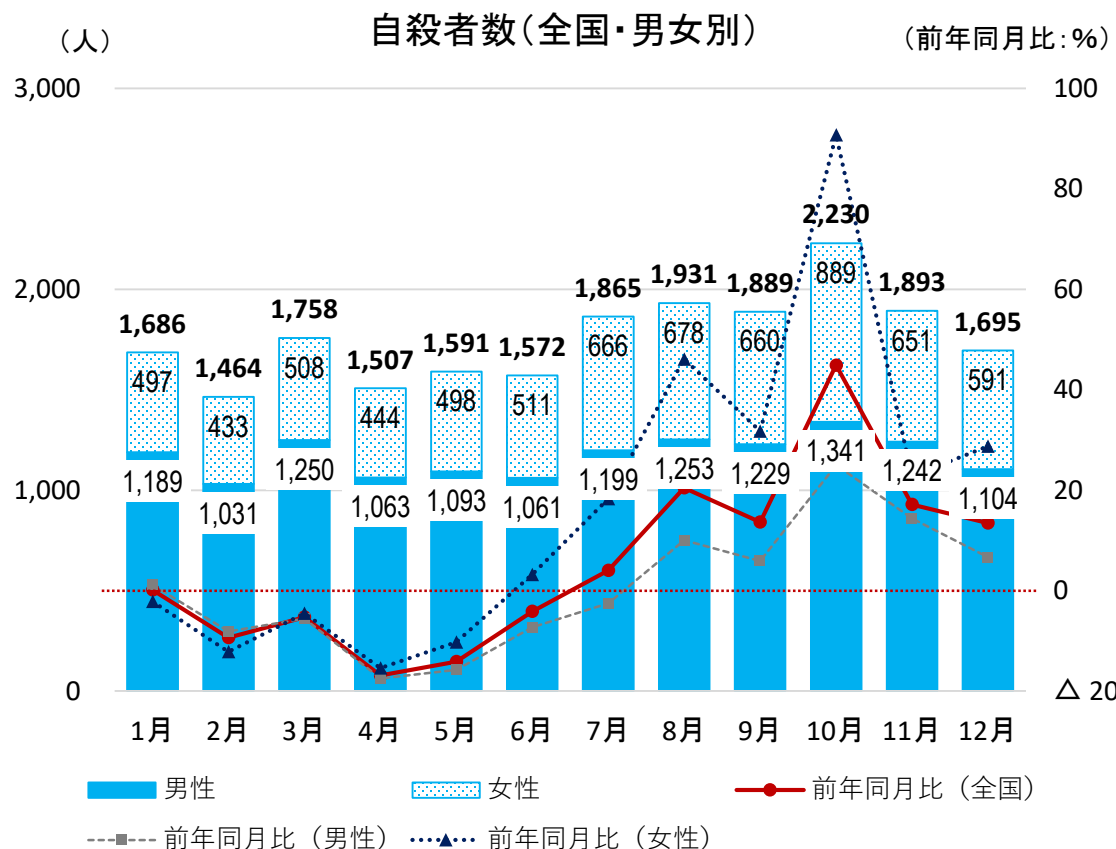
- ・2020年4月～10月の月別妊娠届出数は、北海道、全国ともに前年同月比を下回っており、5月の減少率が最も大きい(北海道:17.8%減、全国:17.6%減)。



出典:厚生労働省「令和2年度の妊娠届出数の状況について」を基に道作成

自殺者数

- 全国の自殺者数を月別でみると、新型コロナウイルス感染者が国内で初めて確認された2020年1月以降、6月までは前年を下回っているが、7月からは6か月連続で前年を上回っている。
- 男女別では、女性の自殺者が増加しており、8月は前年同月比 46.1 %増、9月は 31.7%増、10月は 90.8 %増 となっている。

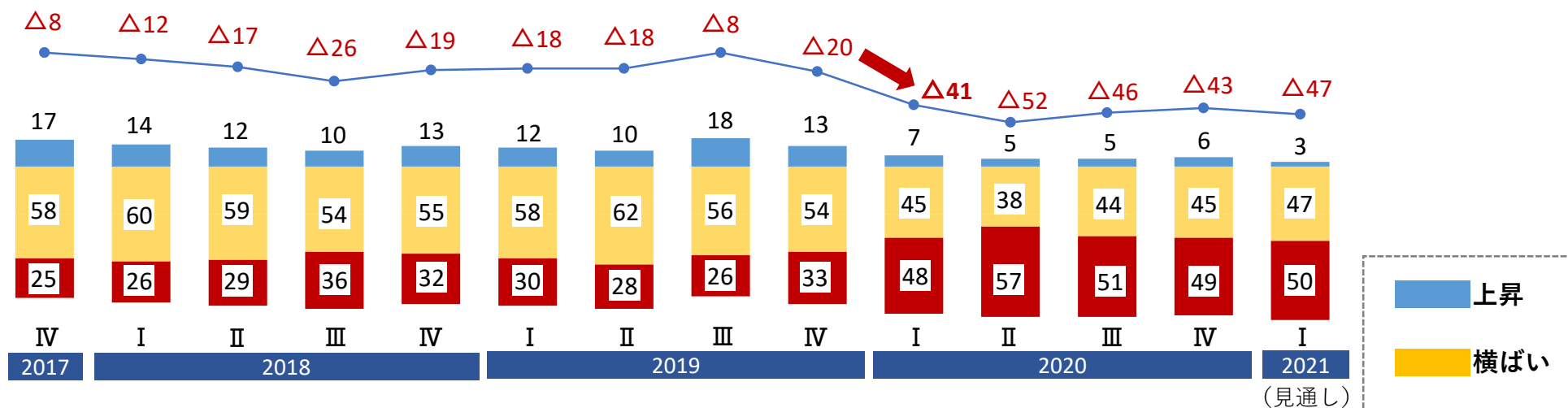


② 經濟・産業

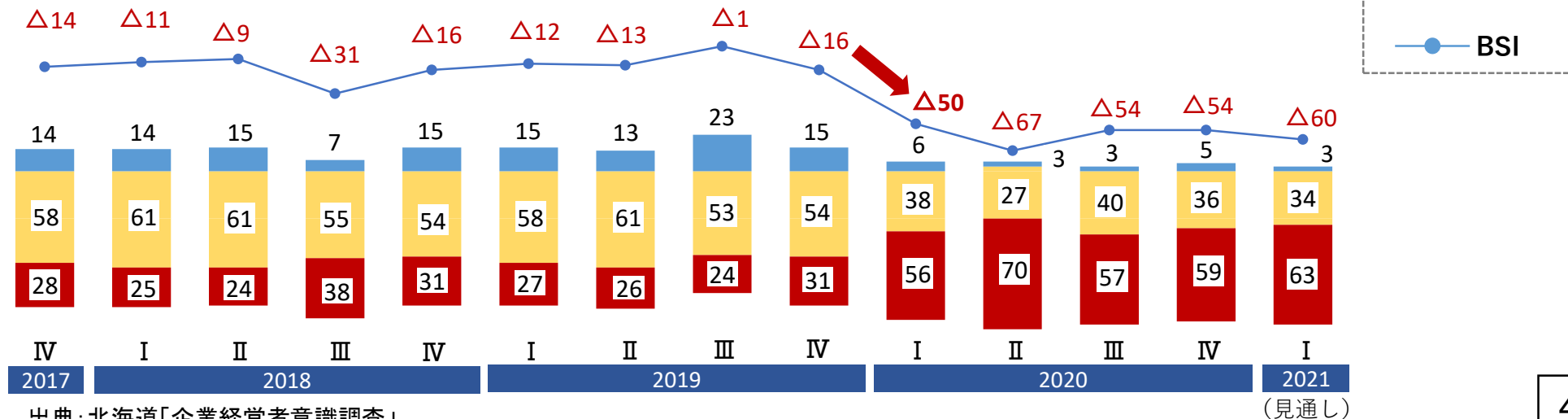
業況感

・企業経営者の業況感について、「上昇」とした企業の割合から「下降」とした企業の割合を減じた値（BSI）は、令和2年第1四半期に大幅に悪化。サービス業では、下げ幅はさらに大きい。

業況感（全体）

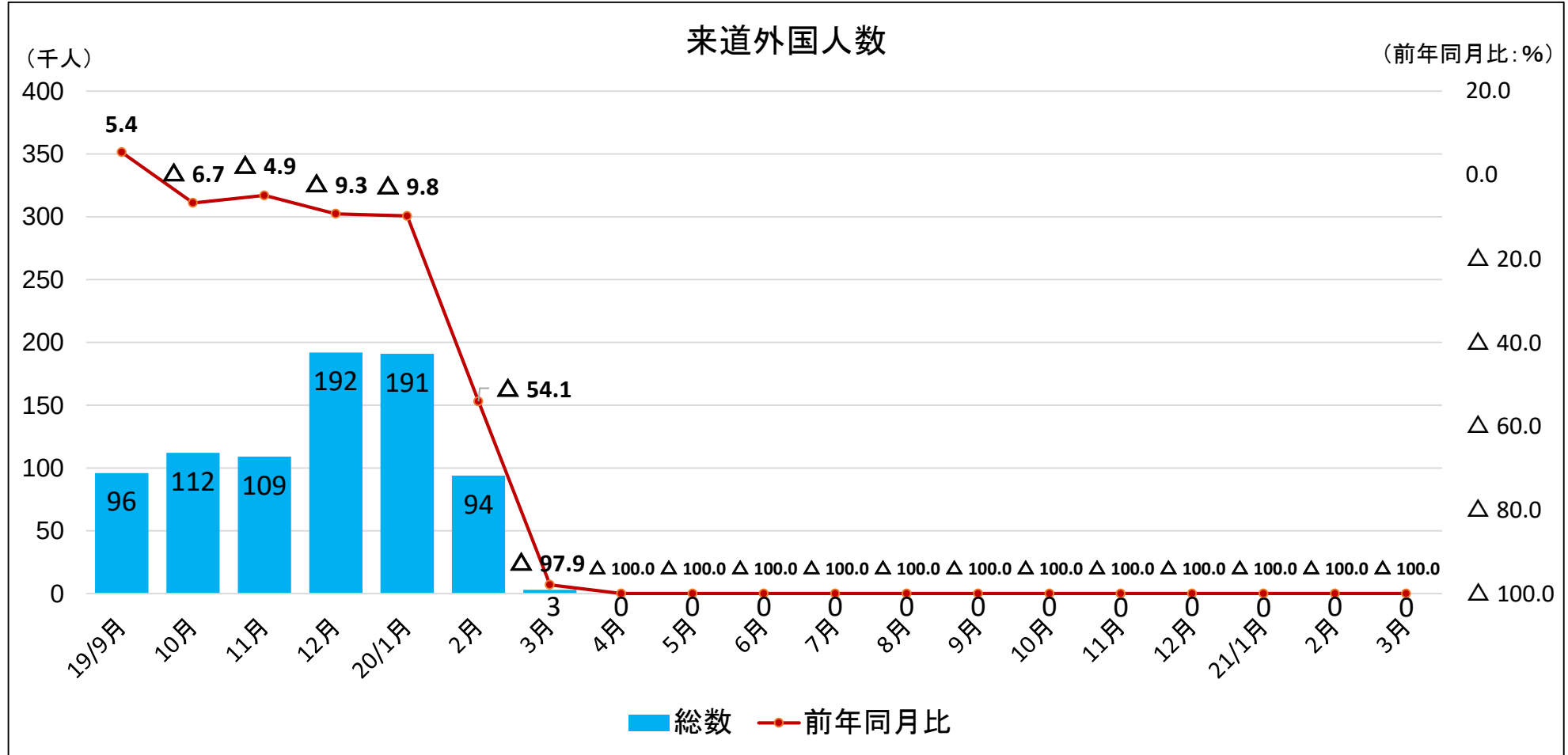


業況感（サービス業）



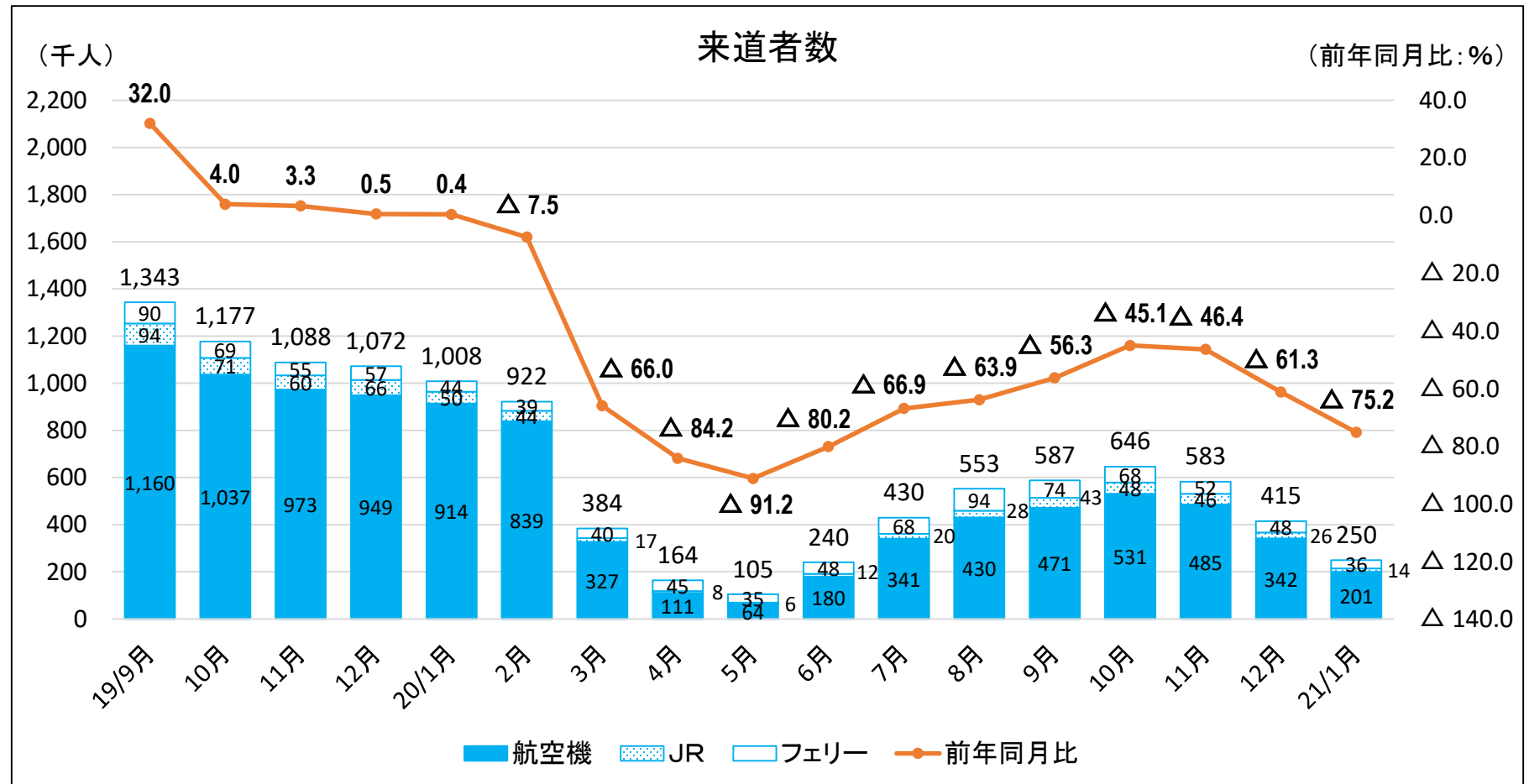
来道外国人数

- ・本道に直接入国した外国人(2020年3月)は 0人で、前年同月比100.0%の減少となり、18か月連続で前年を下回った。



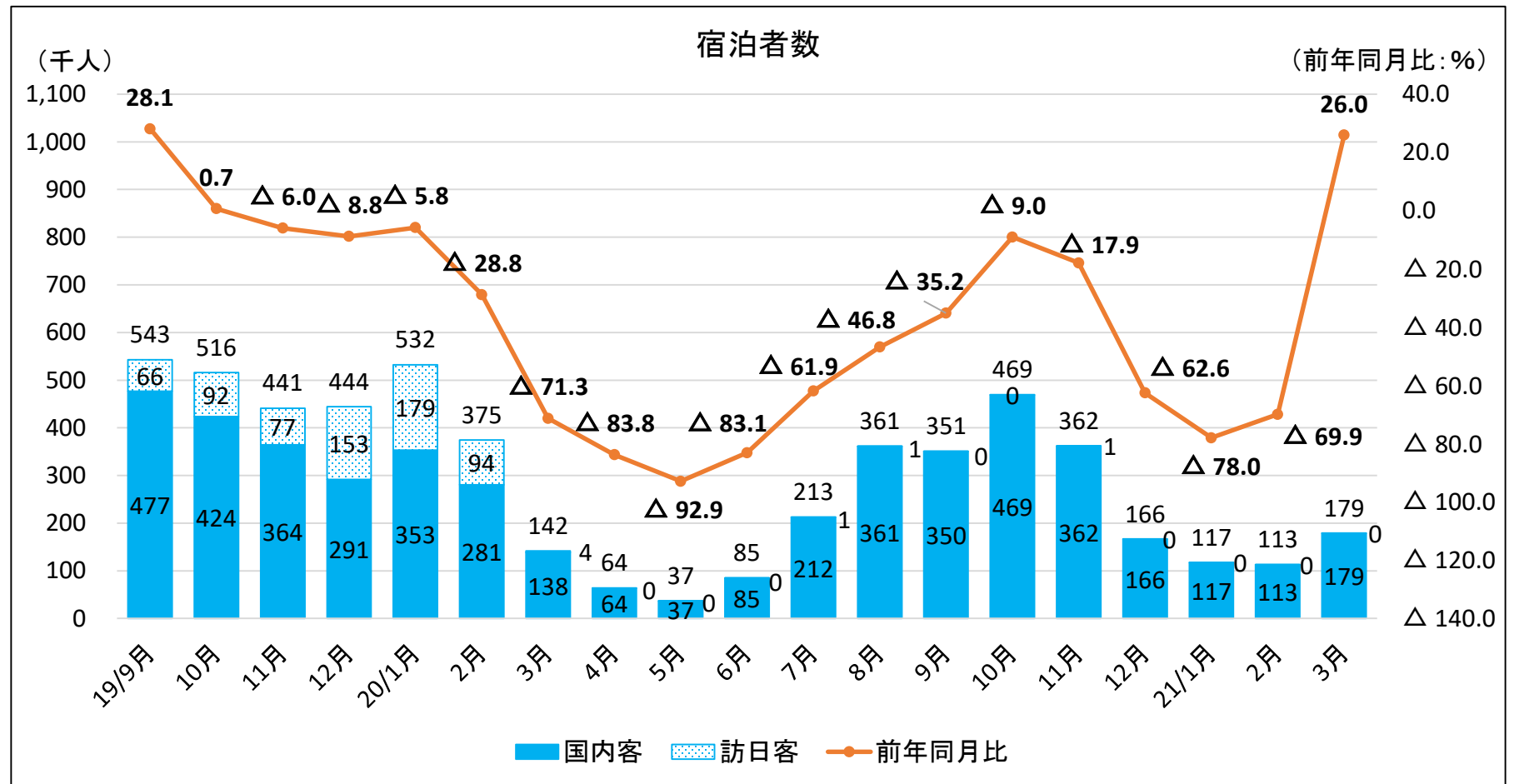
来道者数

- 来道者数(2021年1月)は、25万人で前年同月比75.2%の減少となり、12か月連続で前年を下回った。



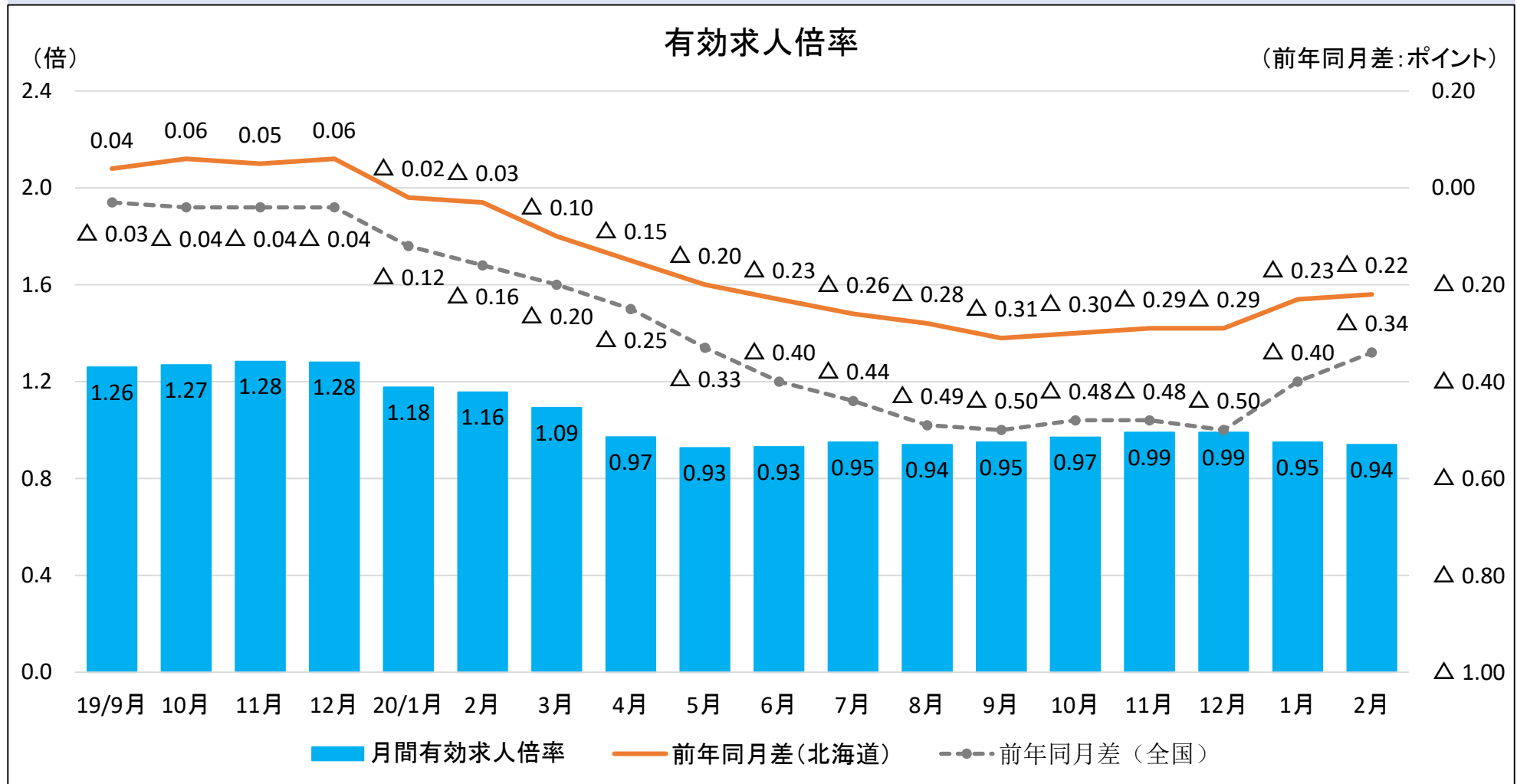
宿泊者数

- 日本旅館協会加盟施設の宿泊者数(2021年3月)は、178,703人で前年同月比26.0%の増加となり、17か月ぶりに前年を上回ったものの、コロナ以前と比べ、依然として厳しい状況。



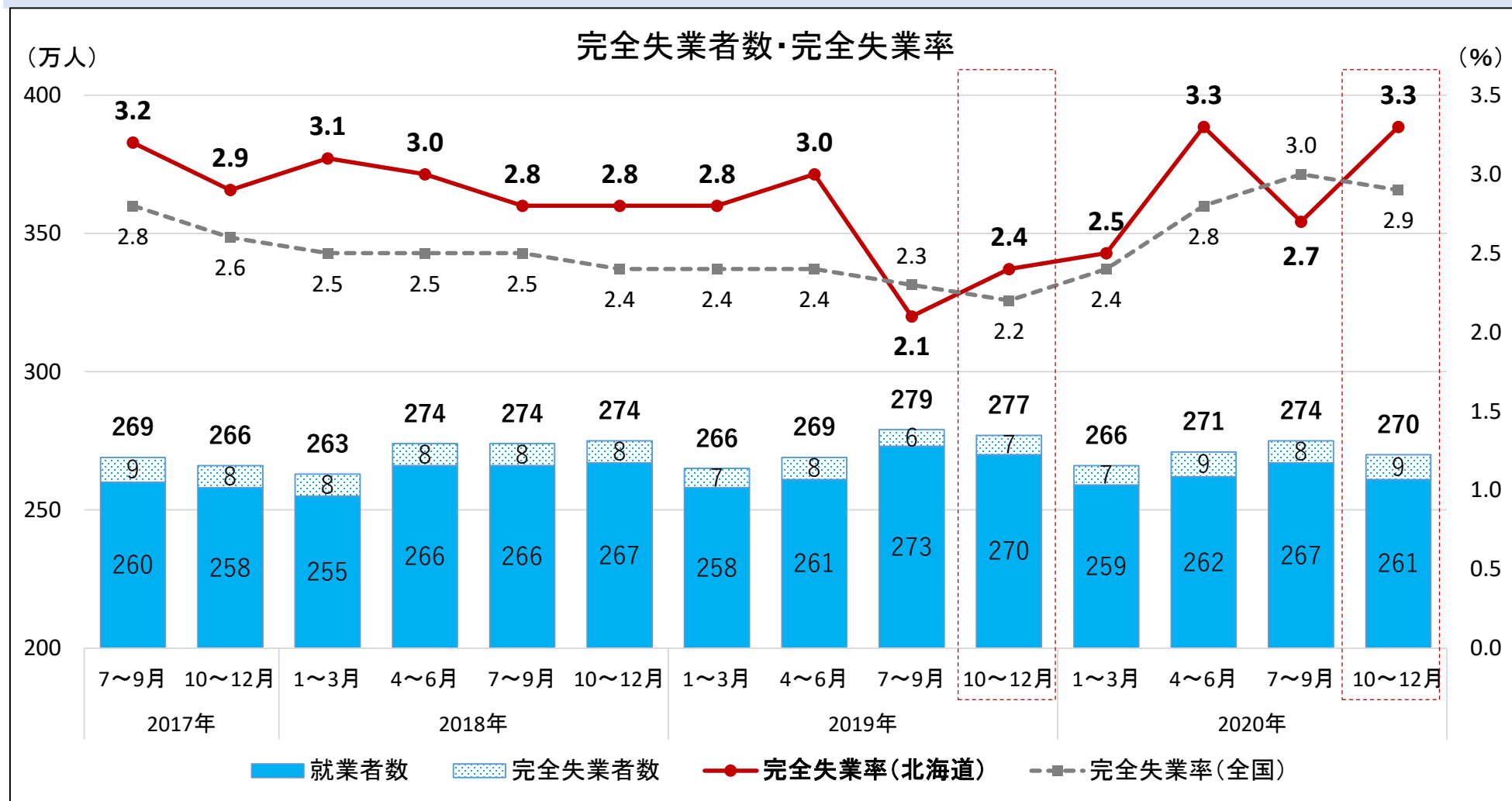
有効求人倍率

- 有効求人倍率(2020年2月)は、0.94倍で前年同月差で0.22ポイントの減少となり、14か月連続で前年を下回った。



完全失業者数・完全失業率

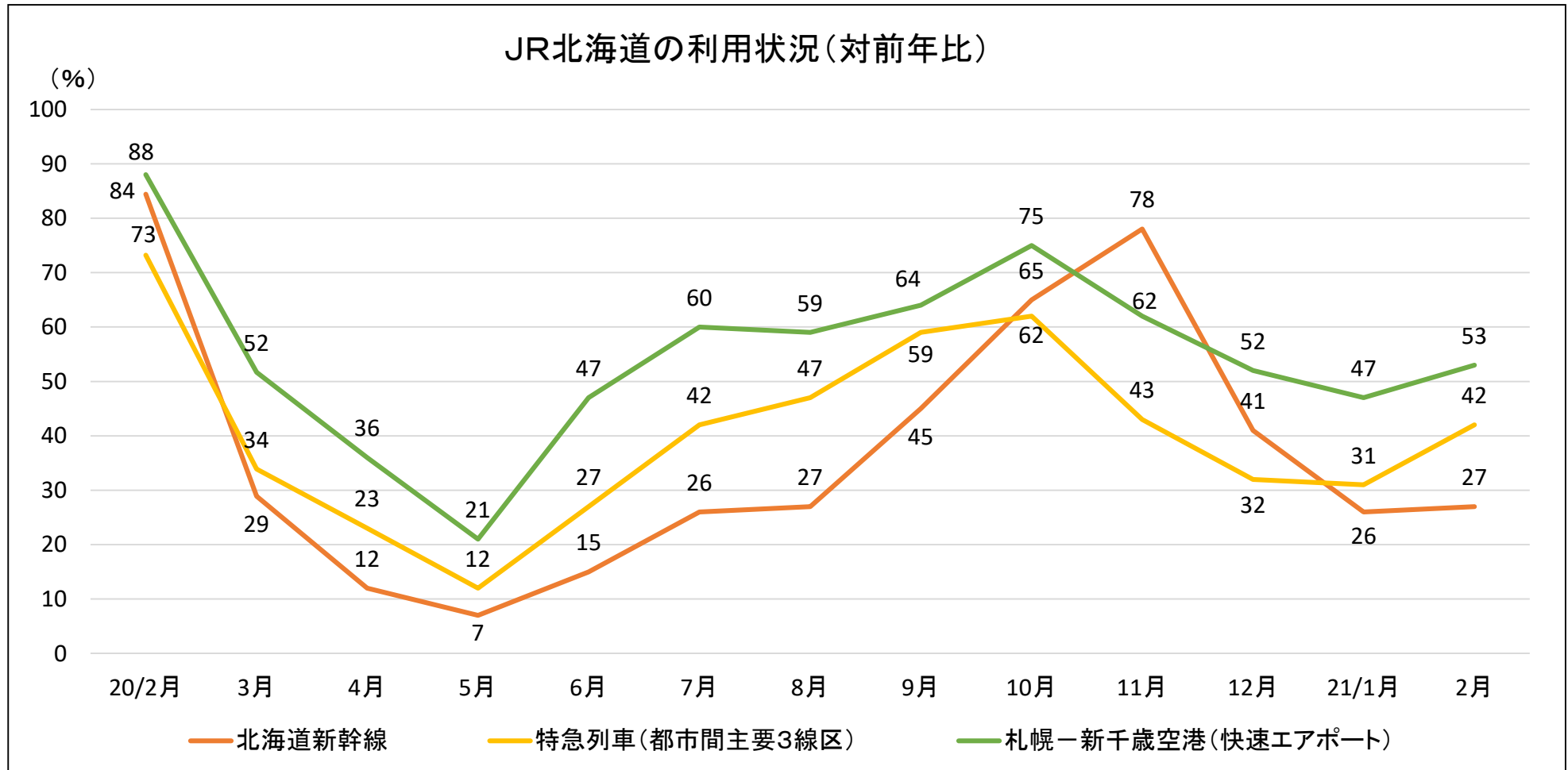
- ・2020年10～12月期の完全失業者数は、前年同期と比べ、2万人増加している。
- ・2020年10～12月期の完全失業率は3.3%で、前年同期と比べ0.9ポイント上昇となっている。



③ 人・地域

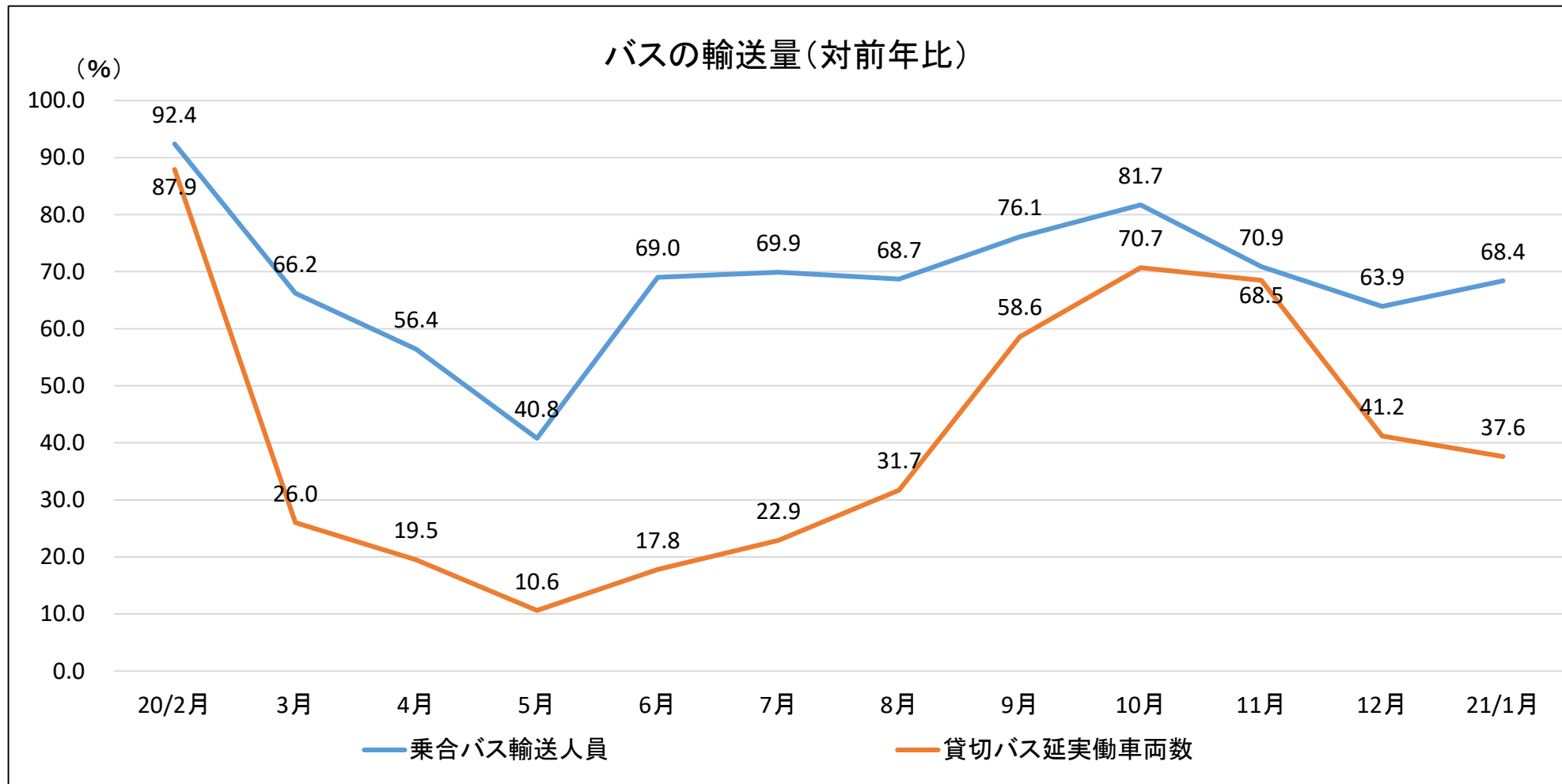
鉄道(JR北海道)の利用状況

- 道内の鉄道網の大部分を担うJR北海道の利用状況は2020年5月を底として回復傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の再拡大を契機に減少に転じ、依然として対前年比で大幅な利用者減となっている。



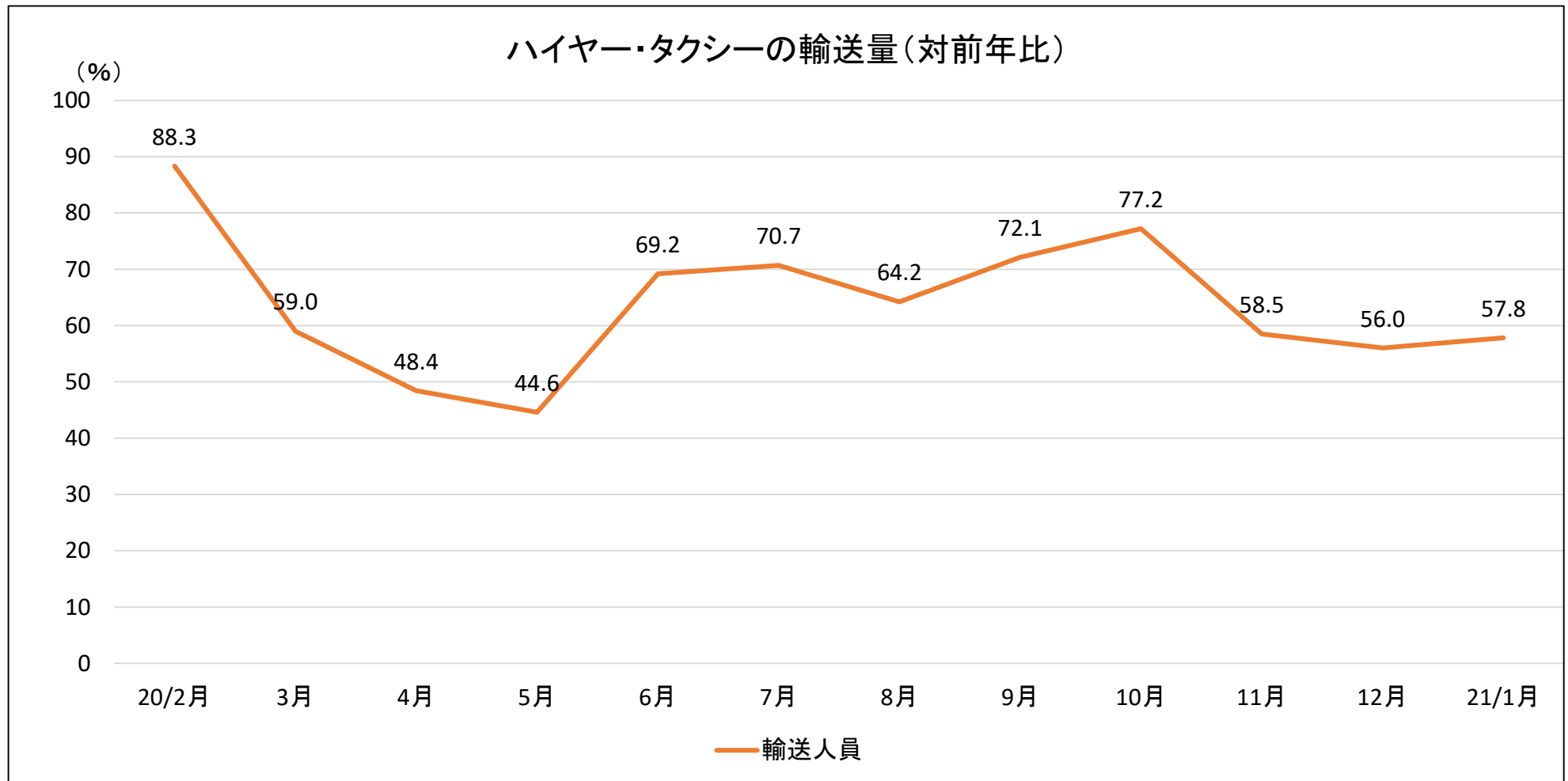
バスの輸送量

- バスの輸送量は、2020年5月を底として回復傾向にはあったが、新型コロナウイルス感染症が再拡大した2020年11月に減少に転じ、依然として厳しい状況にあり、特に、貸切バスの減少が顕著。



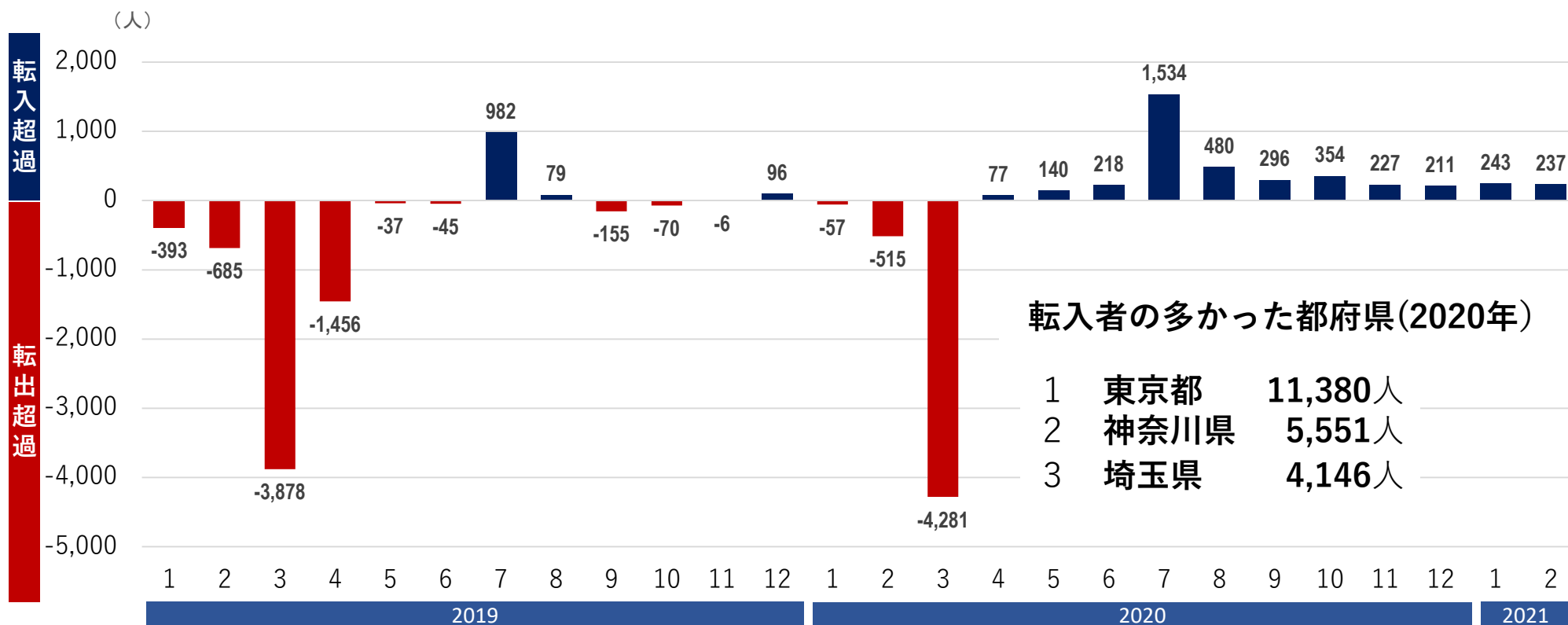
ハイヤー・タクシーの輸送量

- ハイヤー・タクシーの輸送量は、2020年5月を底として回復傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症が再拡大した2020年11月に減少に転じ、依然として厳しい状況。



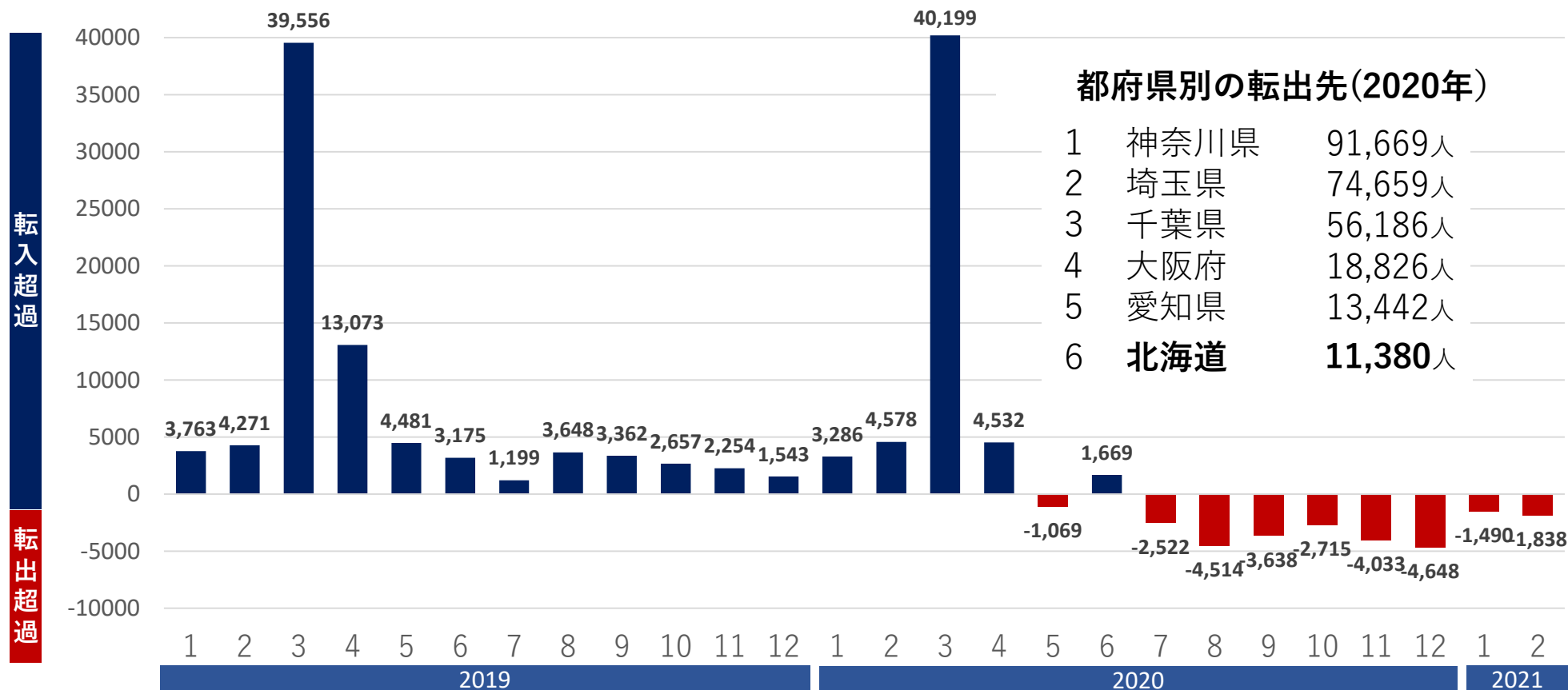
転入・転出の推移(北海道)

- 北海道においては、転出数が転入数を上回る状況が続いていたが、2020年4月以降は、転入者数が転出者数を上回っている。
- 転入の多かった都府県は、東京都がもっとも多く、次いで神奈川県、埼玉県の順となっている。



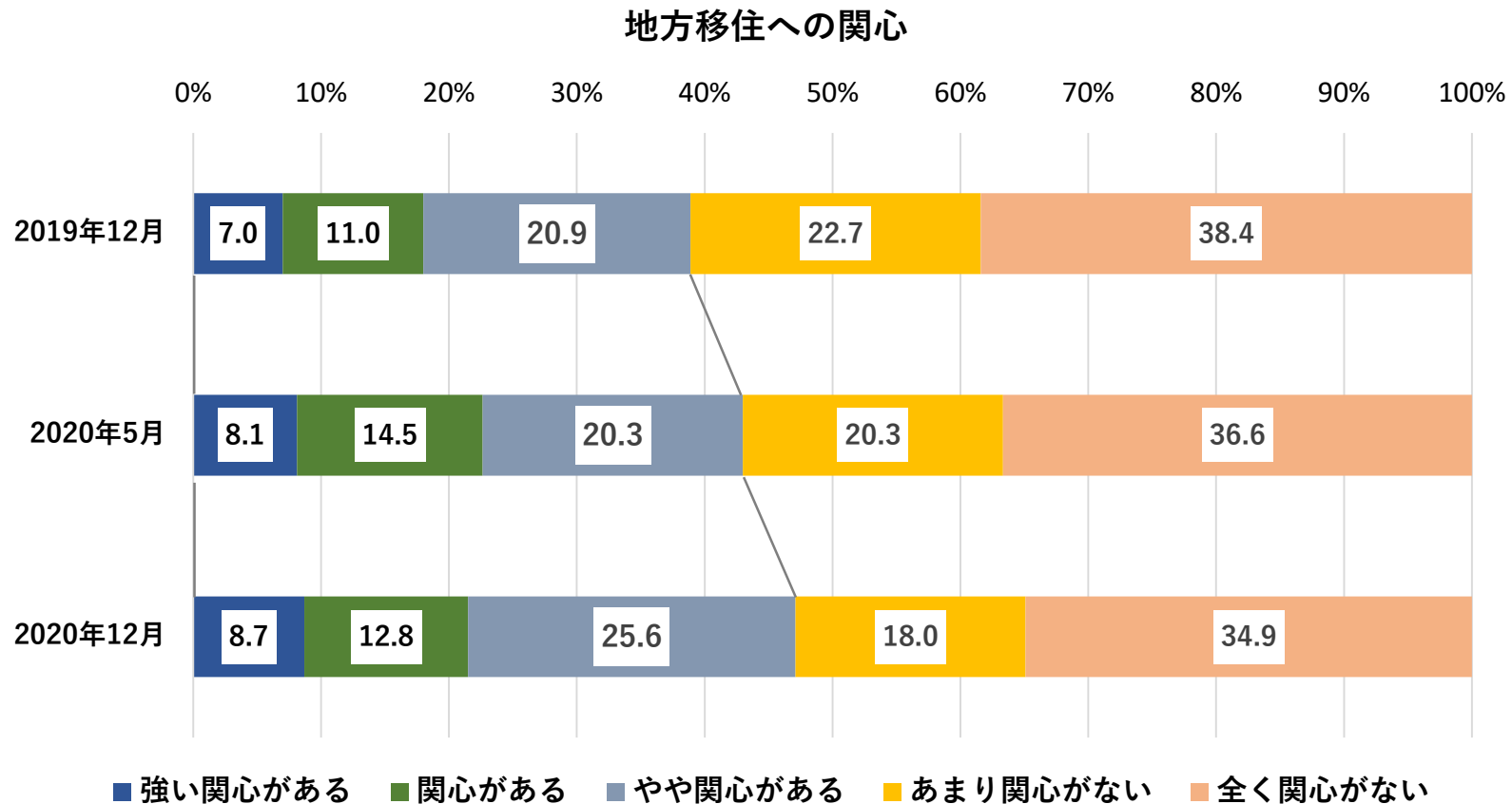
転入・転出の推移(東京都)

- ・東京都においては、転入数が転出数を上回る状況が続いていたが、2020年7月以降は、転出数が転入数を上回っている。
- ・都府県別の転出先を見ると、関東近県（神奈川・埼玉・千葉）が多いが、北海道にも11,380人が転入している（2020年）。



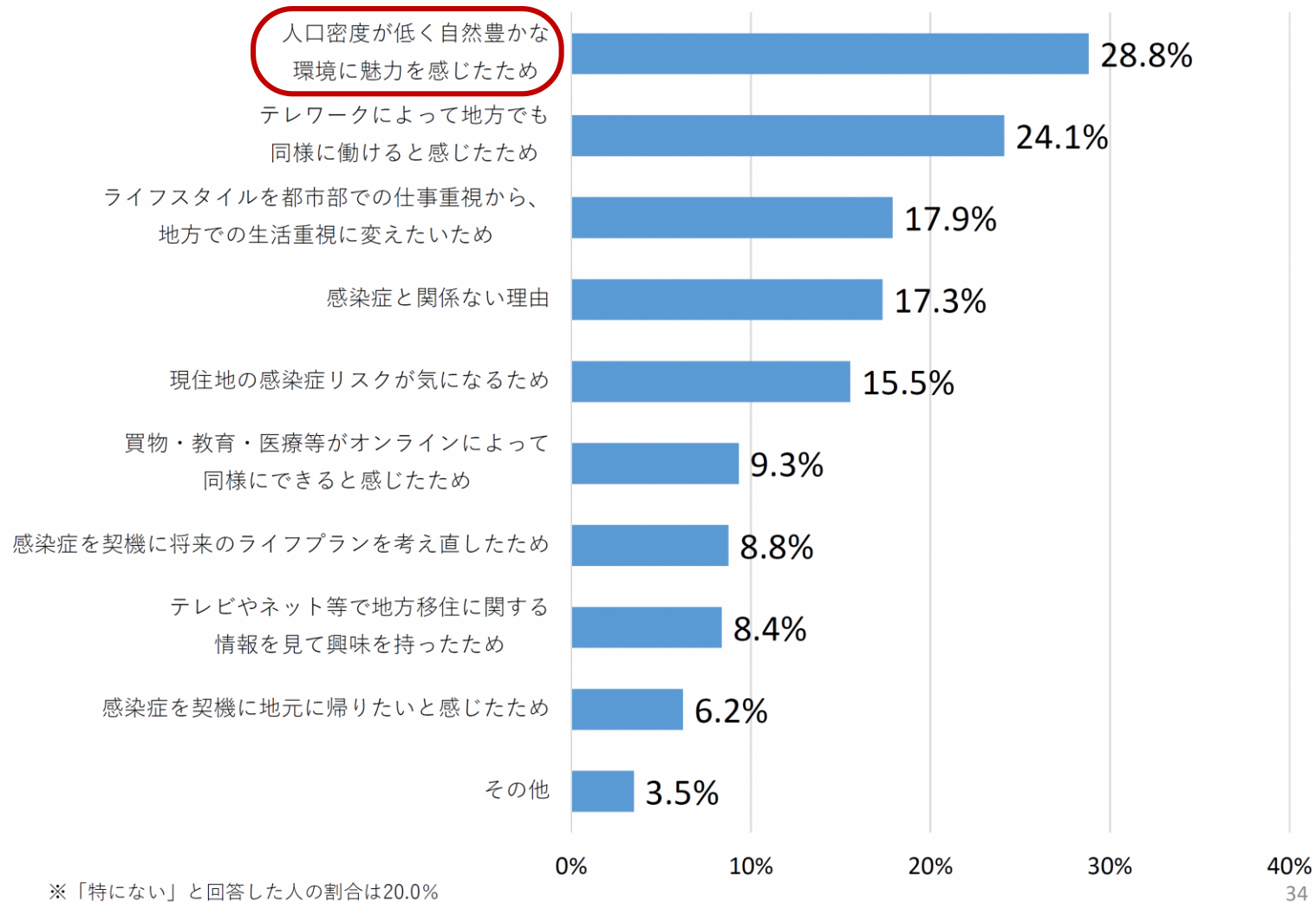
地方移住への関心

- 地方移住への関心は高まっている（調査対象：東京都23区在住者、20歳代）。「強い関心がある」、「関心がある」、「やや関心がある」の合計は、2019年から **8.2 ポイント** 増加。



地方移住への関心理由

- ・地方移住に関心を持った理由としては、「人口密度が低く豊かな環境に魅力を感じたため」との回答がもっとも多くなっている（調査対象：東京圏在住で地方移住に関心がある人）。

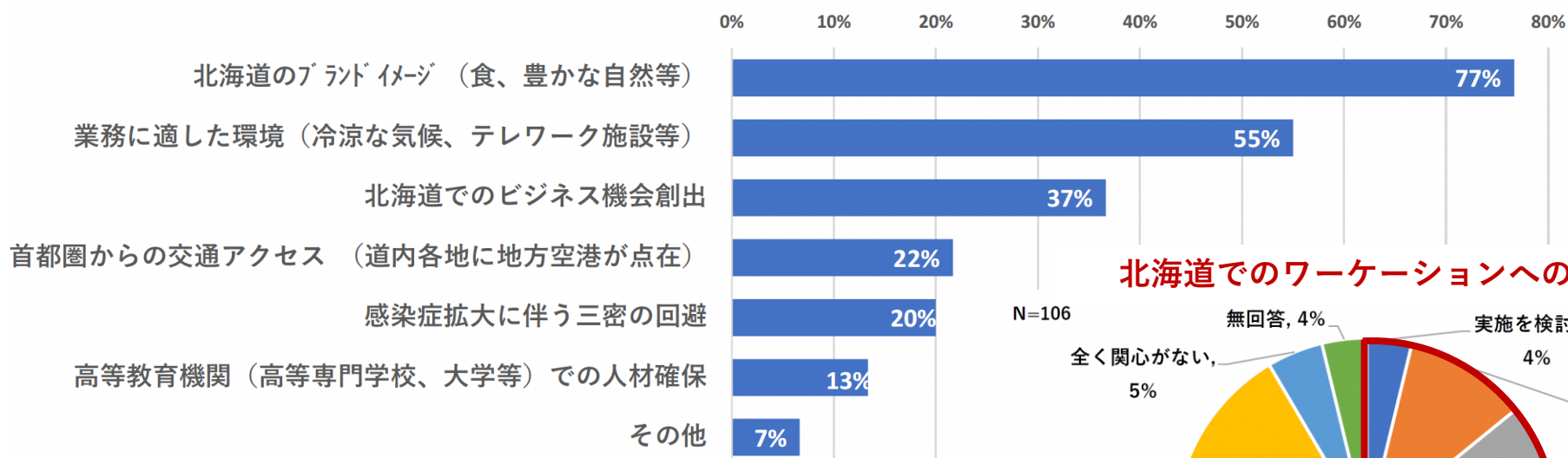


ワーケーションへの関心

- 令和2年9～10月に、首都圏企業に対し、北海道でのワーケーションについてのニーズ調査を実施。「実施を検討中」、「非常に関心がある」、「やや関心がある」の合計は56%となっている。
- 北海道でのワーケーションに関心がある要因は、「北海道のブランドイメージ」との回答がもっとも多くなっている。

N=60

北海道でのワーケーションに関心がある要因



北海道でのワーケーションへの関心

